



五箇山プロジェクト

2011年度活動報告



五箇山地域 相倉集落・菅沼集落



地域の価値を継承しながら、暮らしの在り方を探るため、
2012年6月に世界遺産マスタープランを策定予定

相倉伝統的建造物群保存地区における 構成要素の位置づけ

●伝統的建造物（建築物）

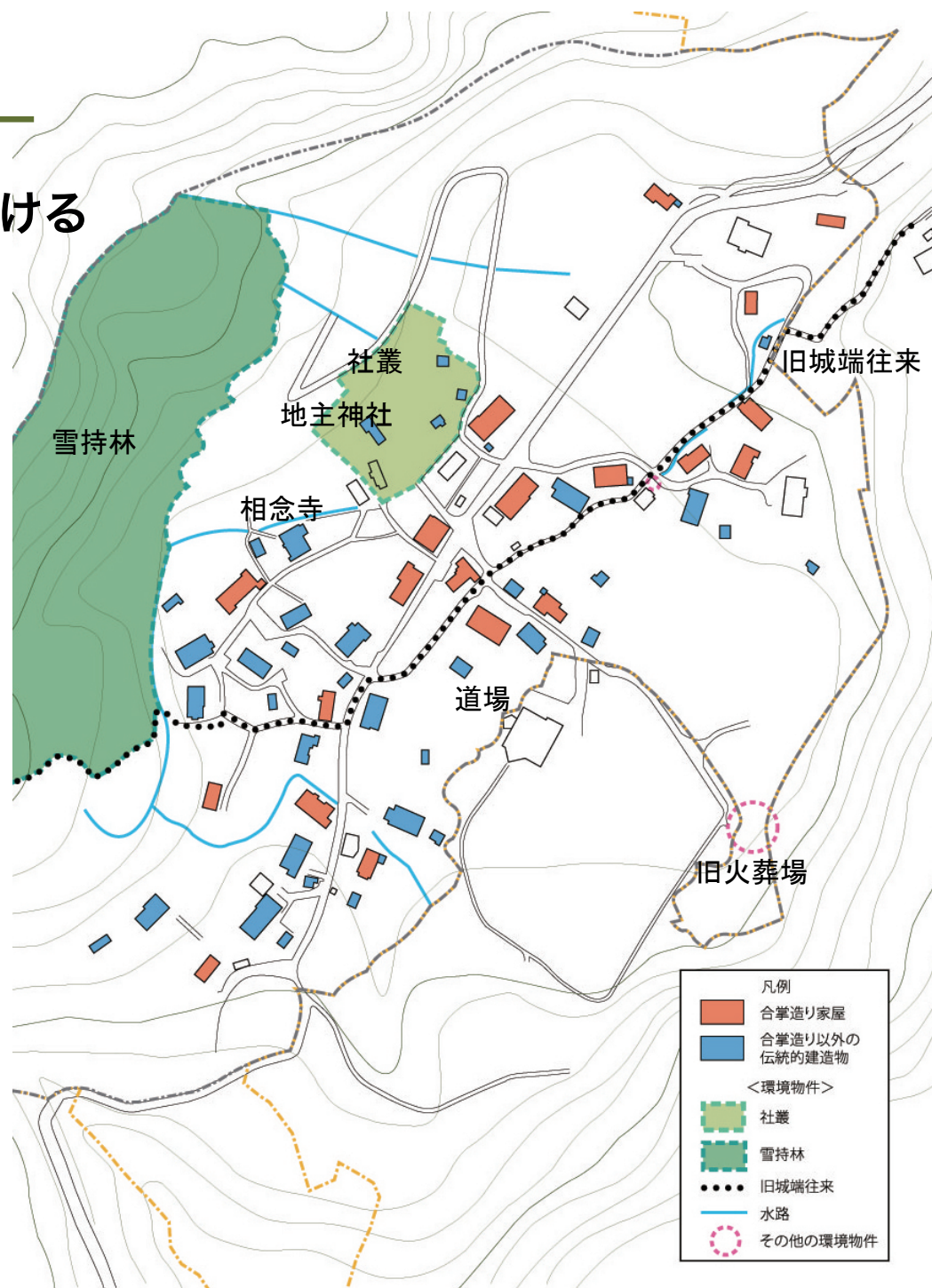
- 合掌造り家屋：20棟
- 合掌造りを改造した家屋：5棟
- 非合掌造りの木造家屋：7棟
- 附属建物：便所8棟、板倉7棟、土蔵12棟、その他3棟

●伝統的建造物（工作物）

- 地主神社社標、石橋、石鳥居、石狛犬、石灯籠

●環境物件

- 旧火葬場、地主神社の社叢、旧主要道（城端往来）、石垣、水路、雪持林、夫婦ケヤキなど



菅沼伝統的建造物群保存地区における 構成要素の位置づけ

●伝統的建造物（建築物）

- 合掌造り家屋：9棟
- 非合掌造りの木造家屋：3棟
- 附属建物：板倉10棟、土蔵3棟、
水車小屋1棟

●伝統的建造物（工作物）

- 神明社石鳥居、石狛犬

●環境物件

- 神明社の社叢、湧水池（清水岩含む）



集落を潤す豊かな水

●資源としての価値

- ・ 美しい水田を支える水路群
- ・ 水が引き立てる合掌家屋の表情
- ・ 池と水路が育む豊かな親水空間
- ・ 集落に響く水路のせせらぎ

●受け継ぐ上での課題

- ・ 清水岩周辺の再生・活用



水田に映る「逆さ合掌」



消雪池のうるおい



清水岩



新旧の農地のコントラスト

●集落の内側の細かな農地

かつて沼地であった集落の内側には、不整形の田畑が入り交じり、合掌造り家屋とともに素朴な景観を生み出している。

●集落外側の広い水田

庄川に面した集落北西の水田は、耕地整理がなされて整然としており、山々を控えた合掌家屋とともに雄大な景観を形作っている。

●農地の維持の難しさ

観光客の多い時間帯には農作業を控えるなどの配慮をされている



暮らしの知恵を伝える樹木

●資源としての価値

- ・ 集落を包み込むように防護する雪持林と防風林
- ・ 火事から財産（倉）を守る樹林（社叢）
- ・ 山の暮らしの記憶：クルミ・トチノキ・クワ

●受け継ぐための課題

- ・ 樹木・山林の手入れ・維持管理（集落内／五箇山全体）
- ・ 樹木の意味を伝える工夫（地域での共有／来訪者への伝達）



北側の水田から望む防風林と雪持林



養蚕の記憶を受け継ぐ桑の木

コンパクトな中にも豊かな回遊体験

●集落内外からの多様な眺望

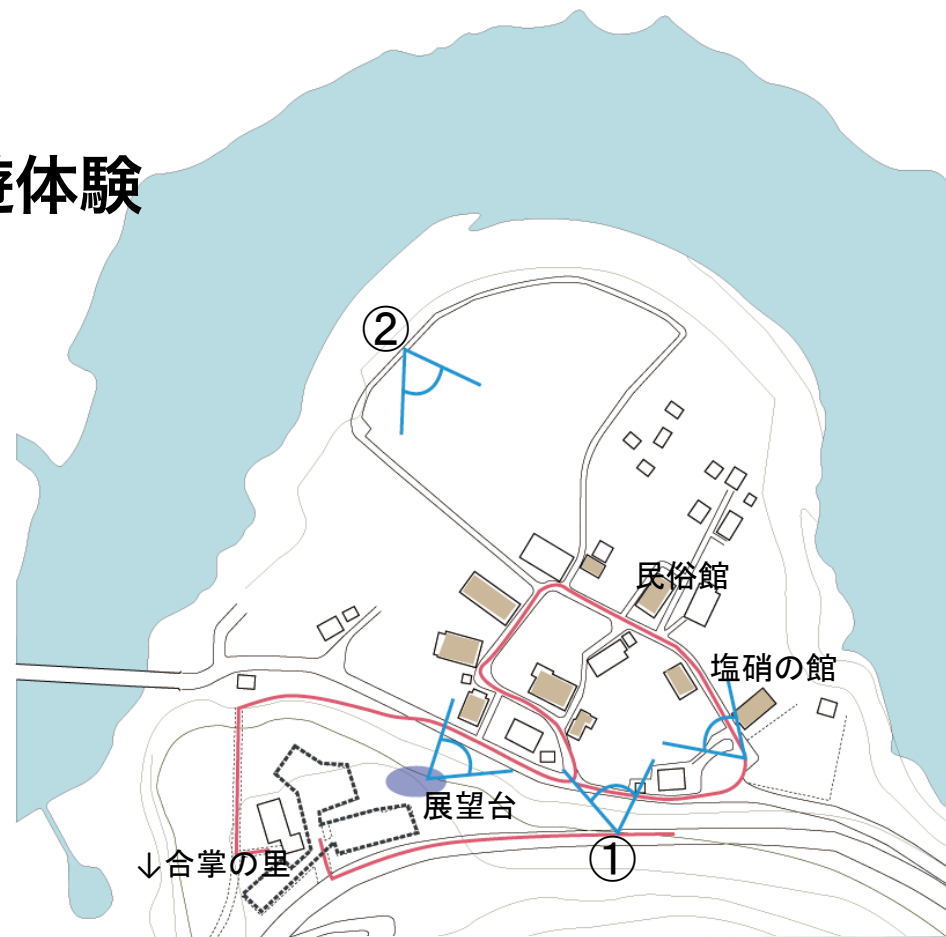
- ・ 国道沿いの高台
- ・ 集落内の道路
- ・ 集落外側の農道など、多様な視点場。

●滞在時間の短さ

- ・ 大半は集落内側をコンパクトに回遊
- ・ 食事客以外は短時間の滞在に

●合掌の里との隣接関係

- ・ 滞在・体験型観光との連携が可能



①国道沿いからの眺望



②集落外側からの眺望



集落内の道からの眺望

合掌造りを支える茅場

●資源としての価値

- ・「要」の伝統素材を地元で産出
- ・無駄のない循環利用：古茅は肥料に
- ・茅場を含む史跡の価値

●受け継ぐための課題

- ・茅場の確保、自給率の向上
- ・茅場の維持管理を集落内外でいかに支えていくか



下草刈りの様子



急傾斜地の茅場(菅沼)



地域の茅場で採れるカリヤス

斜面地に折り重なる石垣と水路

●資源としての価値

- ・水路：貴重な水を斜面地に分配する工夫
- ・石垣群：棚田を支える農業の基盤
- ・美しい農業景観：合掌造りとの調和
- ・池の多面的役割：消雪・防火・生活用水、潤いの空間としても機能。

●受け継ぐ上での課題

- ・石垣の維持管理：景観資源として再確認
 - ・コンクリートのU字溝
- ホタル等の生き物が棲める近自然型水路に



農業を支える石垣と水路



U字溝となっている水路

暮らしの知恵を伝える樹木

●資源としての価値

- ・ 景観を細やかに特徴づける杉木立ち（防風林）
- ・ 集落を背後から支える森（雪持林）
- ・ 食文化の源：クルミ・トチノキ
- ・ 土地の成り立ちを伝える岩

●受け継ぐための課題

- ・ 樹木・山林の手入れ・維持管理（集落内／五箇山全体）
- ・ 樹木の意味を伝える工夫（地域での共有／来訪者への伝達）



傾斜地に細やかに配された農地

●資源としての価値

- ・ 傾斜地を開墾した先人の遺産
- ・ 合掌造りを引き立てる農地
- ・ 山村集落の「生活感」を映し出す田畑
- ・ 来訪者の心をとらえる農の風景

●受け継ぐための課題

- ・ 担い手の確保
- ・ 耕作放棄地の低減
※ 棚田オーナーの展開のあり方



凡例	
■	田
■	田(棚田オーナー)
■	畑
■	休耕地
—	水路



来訪者が最初に目にする棚田



畑の作物に目を向ける観光客

通り往復型の観光行動

●山々を背景とした回遊資源

集落の全景を収める眺望点、人形山への眺め、旧街道沿いの夫婦ケヤキなど、傾斜地で山寄りの立地条件ならではの回遊資源が周囲に散在。

●直線型の観光動線と滞在時間

一方で観光客の多くは、まつやさんの手前、もしくは民俗館の手前まで来て引き返している。短時間（30分~1時間）の滞在が目立つ。



【現在の観光客動線と立ち寄りスポット】

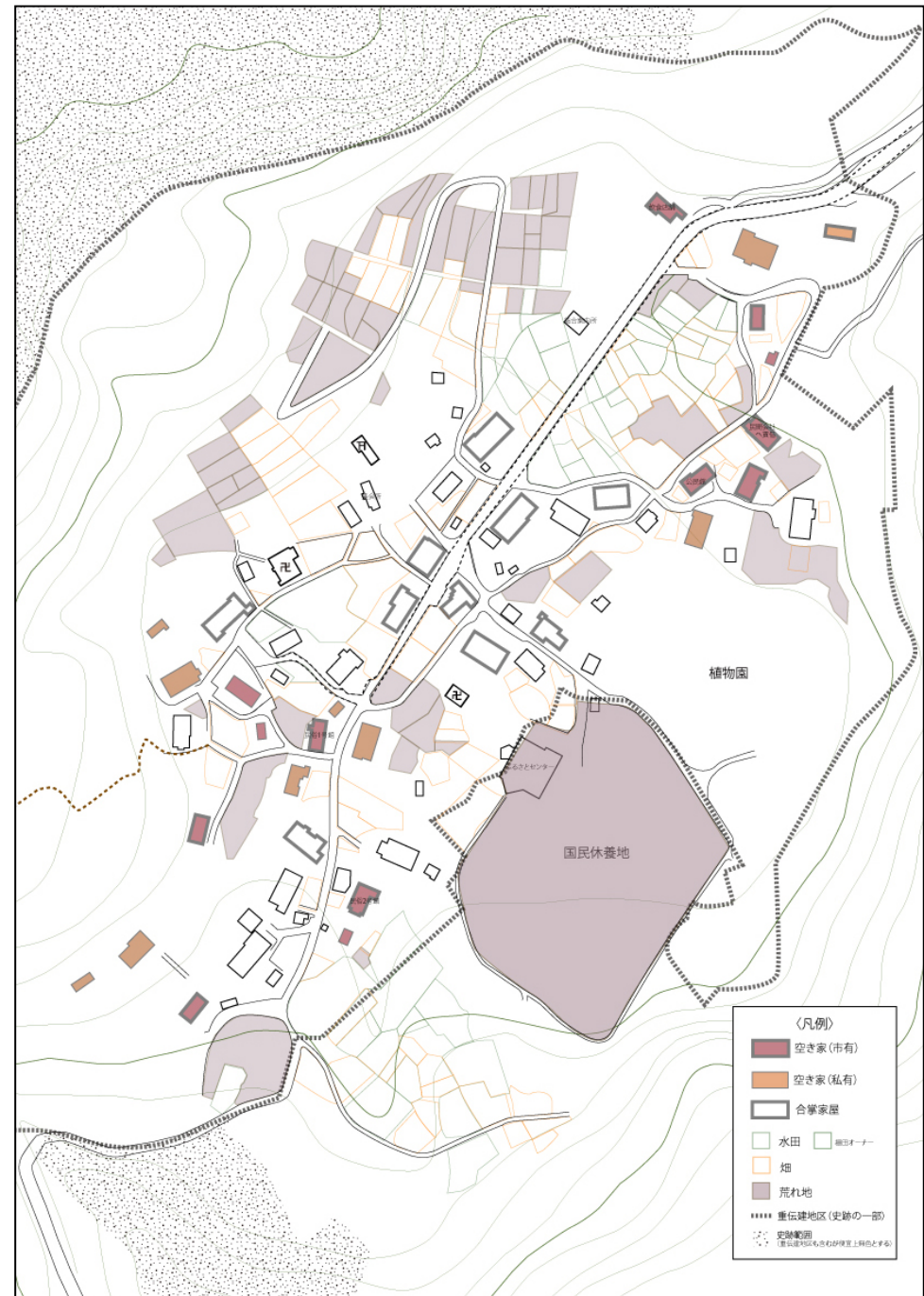


空家／荒地の現状

- 周辺部に増える荒地
斜面地・棚田エリア
- 空家の増加（旧街道沿い／奥）
自動車道路から一つ奥の空間
- 国民休養地エリアの将来計画

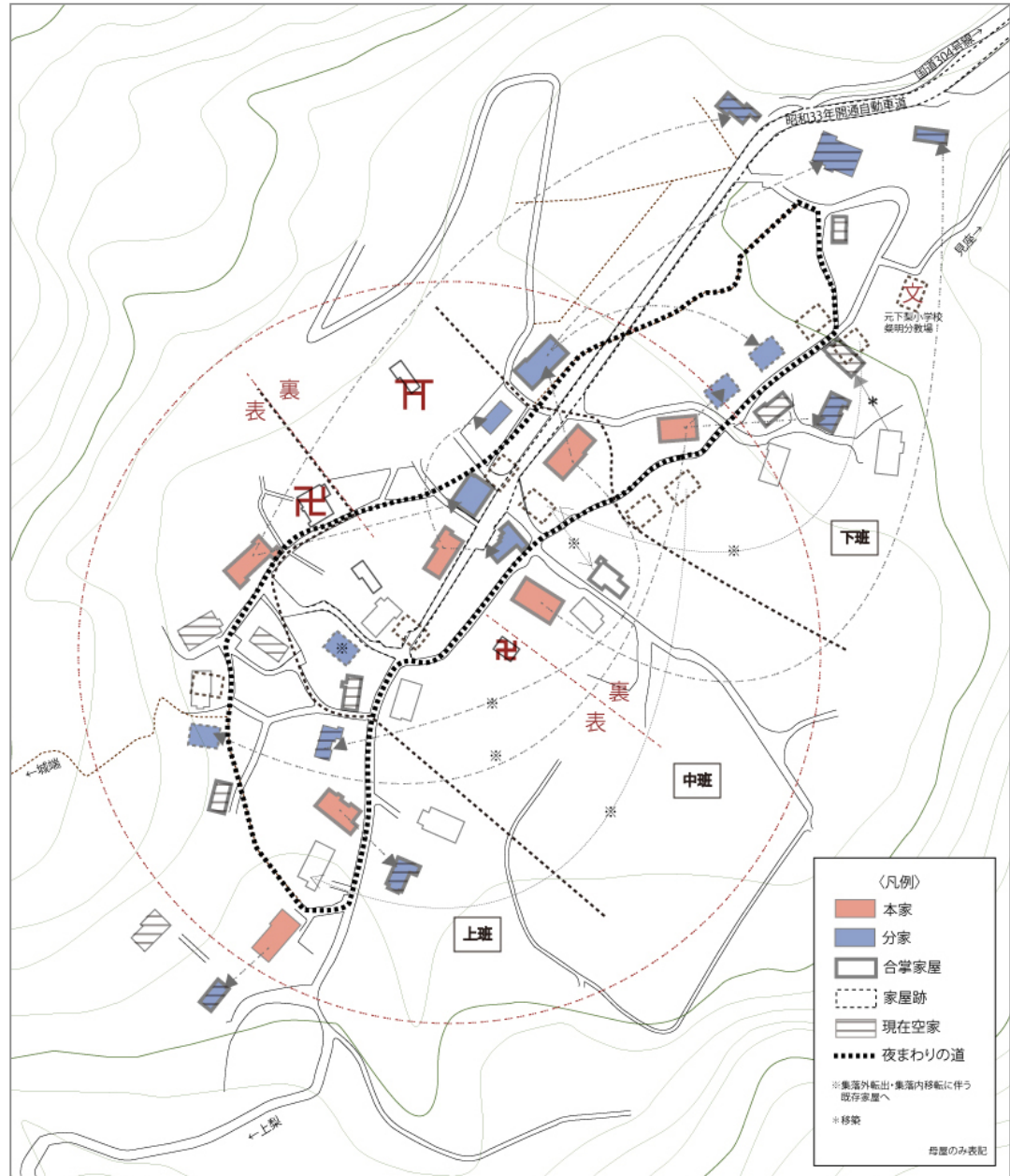
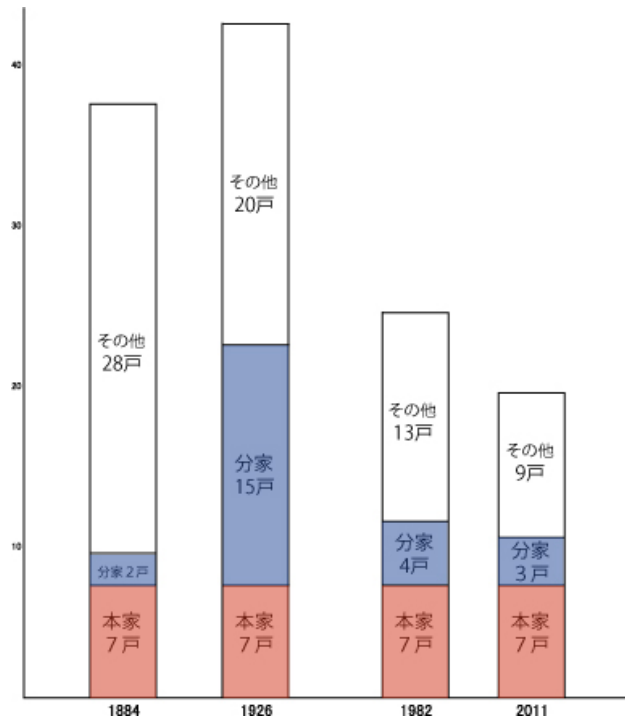


将来に向けた、
・生活空間の改善計画
・観光ルート計画
等に対する基礎調査として、
集落空間構造について調査しています。



集落の変遷調査 1 (本家と分家)

- 表／裏の境は、本家群の中心
- 中心から外へ分家、集落の拡大
- 集落外転出家屋への分家化
- 分家の増加と減少



集落の変遷調査 2 (自動車道路新設前後)

- 城端街道 → 自動車道路、軸の変化
- 城端街道沿いに多く見られる空家

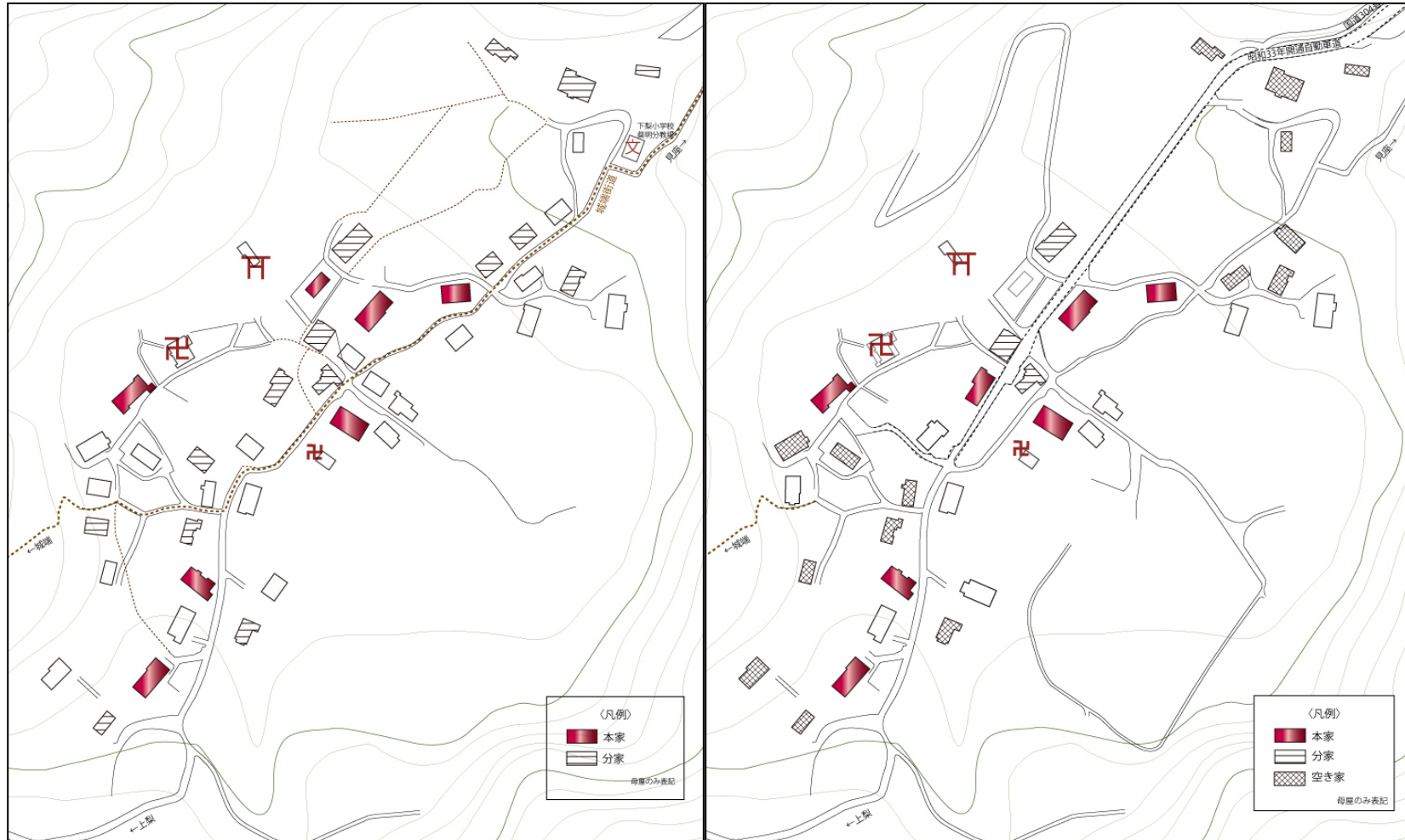
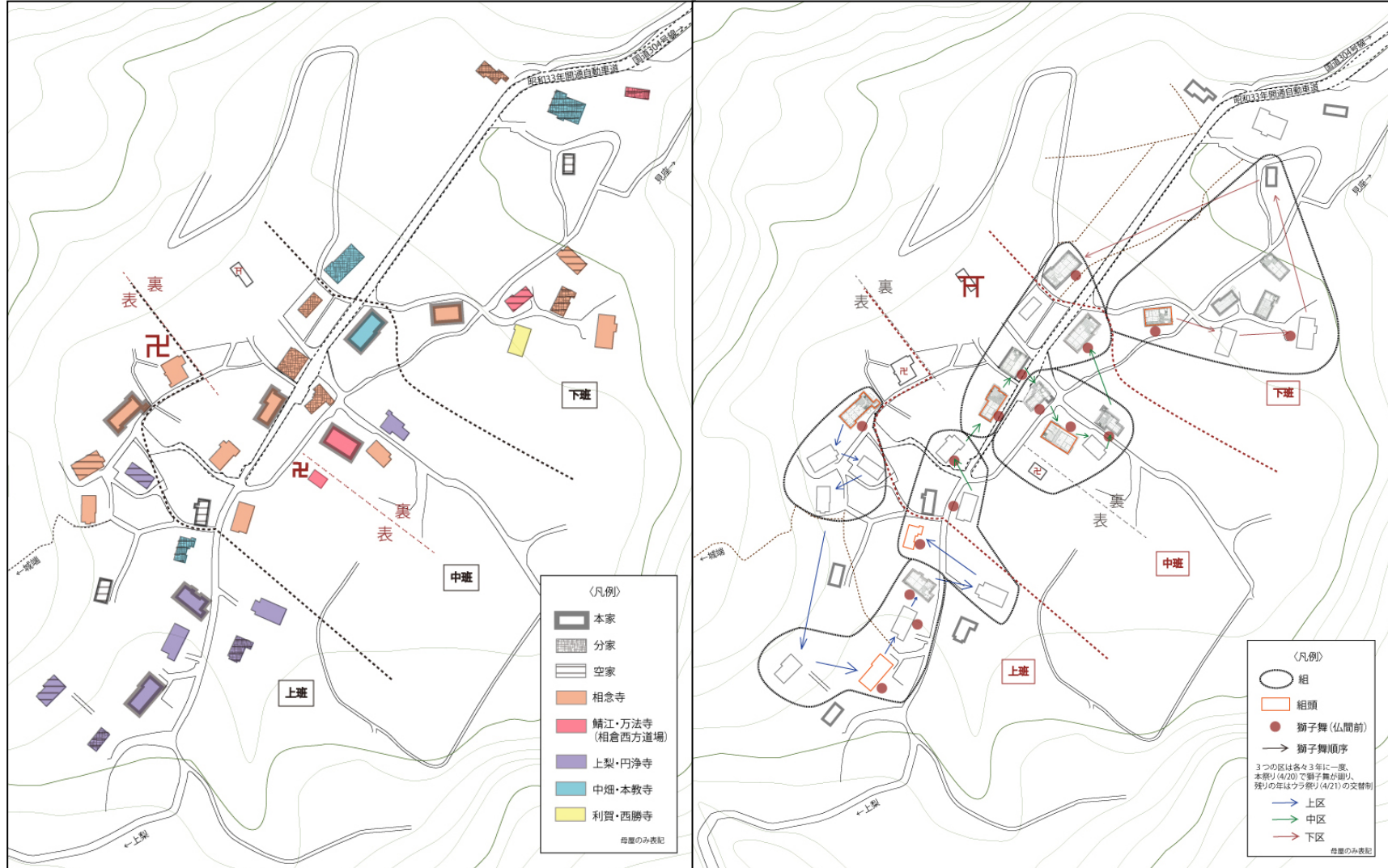


図 昭和初 (1926) 年 (42戸)

図 現在 (2011年) (19戸)

集落の変遷調査 3 (宗教から見た集落構造)

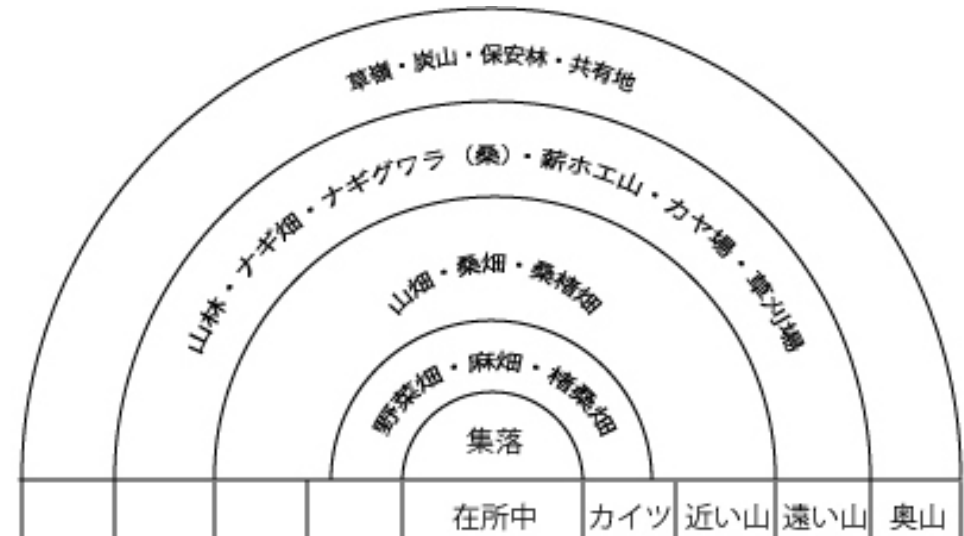
- 仏教（檀家）による空間構成
- 檀家の違いを超えた集落一体の神事
- 獅子舞空間と住居間取りの関係



集落の変遷調査4 (山・道・水路と集落の構造)



- 集落への2つの水路と集落構造
- 山・道と集落の関係性



上図 土地の利用 (出典：平村史上巻)

左図 相倉村山林等別紙字限全図 (明治11年) 相倉区長保管資料

集落の変遷調査 5 (生業の変化 / 共同体の変化と集落)

労働が行われる人間関係の種類	A. 制度化された人間関係	B. 血縁的・地縁的・階層的人間関係の濃密さ	C. 希薄な人間関係	D. 個人労働に対する金銭的価値
共同労働の名称	ヤヤク(公役、賦役) * ←	コーリヤク(合力) *1 テツダイ *2 ← → ユイ(結) *4 ソーサク(惣作) *3		賃労働
仕事の種類	共同的 ←		→ 個別的	
労働の主体	村人 ←	親類、近隣、大家 ← →	個人	
労働の内容	*いわゆる村仕事(道普請、祭り、葬式、念仏道場の修理など)	*1. 無賃金、自発の手伝い(火災後始末、葬式、社寺普請、屋根葺き、木流し、楮はぎ) *2. 賃金あり・なし 両方含む *3. 大家、物持ちが若人招集し酒食/賃金で労働	*4. 労働の交換、原則労働以外の反対給付なし、一般的には親類、近隣同士の労力交換、ユイは決して奉仕的な労力交換でなく、極めて功利的ないわば契約	

出典：地域調査(昭和30年)p179第14表を元に、筆者加筆

